

各府県のR 8 年度のへい死軽減等に向けた取り組み計画の概要

広島県				
へい死推定要因	主な目的	取り組み内容	場所・規模	スケジュール
	原因究明	【県の取組】 ☑原因分析 ①現地調査による、海況環境の差異によるへい死状況の把握 ②室内実験による海洋環境条件下でのへい死リスクの検証	①へい死状況の異なる2か所 ②広島県水産海洋技術センター	R8年6月から実施中

長期の高水温 貧酸素、高塩分による生理障害	へい死発生時の早期対応	【県、漁業者の取組】 ☑養殖方法の転換 ①漁場環境のリアルタイム観測	①15地点	R4年から地点数を増やしつつ実施中
	高水温対策	②カキの水深操作など短期的へい死対策の実証	②3漁協	R8年6月から実施中
	適正な養殖密度	③適正養殖密度による養殖管理などの安定生産へ向けた中長期的な対策の検討	③8漁協	
	モニタリング強化	④漁場環境モニタリングの項目（塩分濃度及び溶存酸素）の追加	④8地点	
	安定的な種苗採取	⑤AIを活用したカキ幼生調査の支援	⑤6漁協	R8年6月から実施中
	環境に適した種苗の導入	⑥環境の変化に強い種苗を育成するための管理技術の実証	⑥2地点	R8年7月から実施予定

	漁場環境の改善	【市町、漁業者の取組】 ☑漁場環境の改善 牡蠣殻を有効活用した漁場の底質改善	9地区	R8年6月から実施中

各府県のR 8 年度のへい死軽減等に向けた取り組み計画の概要

岡山県				
へい死推定要因	主な目的	取り組み内容	場所・規模	スケジュール
高水温・高塩分	へい死の原因究明と へい死発生時の早期 対応	【県の取組】 ☑カキのモニタリング調査 ①成育状況調査 ②へい死状況調査 ③カキの漁場環境調査	複数の漁協	①2月まで ②生産開始まで ③生産開始まで
		☑移動系列の違いによるへい 死率調査	2 か所 (塩分の低い漁場と高い漁場)	生産開始まで
		☑データベースの作成と漁期 予測（情報提供体制の構築）	岡山県下全域	実施中
		【漁業者の取組】 ☑養殖手法に係る取組 ①比較的へい死が少な かった低塩分の漁場の 活用 ②漁期中に行う筏の移動 時期や方法の見直し ③一部の地区における三 倍体種苗の養殖数量の 増加	一部の漁協	養殖状況により適宜実施

各府県のR 8 年度のへい死軽減等に向けた取り組み計画の概要

兵庫県				
へい死推定要因	主な目的	取り組み内容	場所・規模	スケジュール
高水温 エサ不足	へい死の原因究明	【県の取組】 ☑陸上水槽飼育実験により、 高水温下における餌料条件を比較することで、 へい死、産卵状況、成長差等を調査	場所：兵庫県立農林水産 総合センター 水産技術センター 規模：200L水槽× 6 基程度	7～10月：飼育実験 11月～：結果とりまとめ
	高水温対策	【県の取組】 ☑高水温環境に適応するためのマガキ養殖方法の確立を目指すため、従来とは異なる養殖方法（夏期の高水温を回避する養殖）に取り組む	場所：一部の漁協 規模：吊り線数十本程度	7～9月：現地実証試験 10月～：結果とりまとめ

各府県のR 8 年度のへい死軽減等に向けた取り組み計画の概要

愛媛県

へい死推定要因	主な目的	取り組み内容	場所・規模	スケジュール
高水温 貧酸素	高水温対策 エサ不足対策	【漁業者の取組】 ☑養殖手法に係る取組 ①筏に遮光シートを設置 ②筏を潮流の早い海域に移動	場所：A市 規模：①養殖用筏 3 ～ 5 台 ②養殖用筏 2 台	①7～10月 ②7～8月
	環境に適した 種苗の導入	☑種苗に係る取組 ①3 倍体マガキの養殖 ②複数の産地から種苗を 導入することによる へい死リスクの分散	場所：B町 規模：①2 簗程度 ②種苗の産地別に 各 2 簗程度	①周年 ②10月から 翌年 3 月頃まで

香川県

へい死推定要因	主な目的	取り組み内容	場所・規模	スケジュール
高水温 エサ不足 貧酸素	モニタリング強化	【市、漁業者の取組】 ☑水産センサー設置による 漁場環境モニタリング	一部の漁協	令和8年度漁期
	環境に適した 種苗の導入	☑種苗に係る取組 ①3 倍体マガキの養殖 ②R 7 漁期の生残率が 高い又は高水温耐性 が高いとされる産地の 種苗を導入	一部の漁協	令和8年度漁期

各府県のR 8 年度のへい死軽減等に向けた取り組み計画の概要

徳島県

へい死推定要因	主な目的	取り組み内容	場所・規模	スケジュール
高水温 貧酸素 エサ不足	高水温対策	【漁業者の取組】 ☑養殖手法に係る取組 ①深吊り ②養殖エリアの分散	昨年度養殖と同区画	①R8.5月および10月 ②R8.4～8月
	へい死リスク分散	----- ☑水揚げ時期の調整 夏場へい死前の冷凍品 の開発	場所：A町 規模：5~10万貝	R8.3月～
	高水温対策	☑種苗に係る取組 3倍体への切り替え	既存水域	R8.9月 種付け
	貧酸素対策	☑漁場環境の改善 底質改良材の散布による 貧酸素状態の改善	B漁協	R8.8月：底質改良材散布 R8.8月、11月およびR9.2 月：漁場環境調査

大阪府

へい死推定要因	主な目的	取り組み内容	場所・規模	スケジュール
高水温 赤潮（ヘテロカプ サの増加）	へい死発生時の リスク軽減	【県の取組】 ①漁業共済への加入促進 ②養殖再開に対する 補助事業の実施	場所：大阪府下全域	実施中

各府県のR 8 年度のへい死軽減等に向けた取り組み計画の概要

山口県

へい死推定要因	主な目的	取り組み内容	場所・規模	スケジュール
高水温 エサ不足 降水量の減少	適正な養殖密度	【漁業者の取組】 ☑飼育密度の管理 ①バスケット式養殖において、カゴの体積に対して、1/3～2/3の収容になるよう徹底を図る。 ②新たな養殖場を検討。	場所：県内の複数漁協	養殖密度管理については4～5月又は9～11月の種苗導入時から。
	付着物対策	☑付着物の除去の徹底		

高知県

へい死推定要因	主な目的	取り組み内容	場所・規模	スケジュール
不明	へい死発生時の早期対応	【県の取組】 ☑養殖業における高水温・赤潮対策の強化としてテレメーターブイ（水温・DO・クロロフィル等、2層）を設置予定	場所： 貝類養殖区画に近い魚類養殖区画に1基設置予定 ※隣接する漁協にも1基設置予定	R8年度中に設置予定。

各府県のR 8 年度のへい死軽減等に向けた取り組み計画の概要

三重県				
へい死推定要因	主な目的	取り組み内容	場所・規模	スケジュール
—	環境に適した種苗の導入	【県の取り組み】 ※令和 7 年度から継続 ☑水産研究所でのへい死対策試験（3 倍体種苗の有効性の検証など） ----- ☑栽培漁業センターでの三倍体カルチ種苗生産実証試験	A市を中心とするカキ養殖漁場で、試験的規模で実施	水産研究所での試験は随時開始。 ----- 三倍体カルチ種苗生産実証試験は秋ごろに実施を予定。

福岡県				
へい死推定要因	主な目的	取り組み内容	場所・規模	スケジュール
—	環境に適した種苗の導入	☑種苗に係る取組 ①海域に適した種苗産地の選定 ②三倍体種苗の試験	複数の代表地先を選定し、養殖筏の一部を借りてモニタリング調査を実施。	令和8年 2 月～令和 9 年 1 月頃まで定期的に調査を実施。

各府県のR 8 年度のへい死軽減等に向けた取り組み計画の概要

宮城県

へい死推定要因	主な目的	取り組み内容	場所・規模	スケジュール
高水温等 (※令和 5 年度から高水温が継続)	へい死原因究明	【県の取り組み】 ☑県水産技術総合センターによるへい死調査 ※令和 6 年度から継続	県中央部のカキ漁場でへい死調査（カキサンプリング、漁場環境モニタリング） ※令和 5 ～ 7 年度までは県南部で調査	調査は随時開始
	環境に適した種苗の導入	☑県水産技術総合センターによる 3 倍体カキの種苗生産技術開発や有効性の検証など ※令和 4 年度から継続	県水産技術総合センターで屋内試験、漁場で試験養殖	試験および試験養殖は随時開始
	高水温対策	☑高水温等の環境変動に対応するための支援（県単独事業） （生産工程見直し、深下げ、3 倍体カキの導入等に係る資材経費を支援し、漁業者による取り組みを後押し） ※令和 6 年度から継続	県下全域を対象	支援は随時開始